

飯田・リニア駅前空間 デザインノート(案)



リニア駅前空間の考え方	01
駅前空間の設計方針と全体計画	04
設計方針	
1：アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間	06
2：住民や来訪者の居場所となる駅前空間	08
3：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間	12
4：人のつながりと、伊那谷全域へといざなう駅前空間	16
5：時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間	18
持続可能な魅力発信施設の運営に向けた仕組みづくり	20
付録：基本設計の検討経緯	22
付録：基本設計の検討体制	24

目次+デザインノートの位置づけ

基本設計の策定とデザインノートのとりまとめにあたって



飯田市長 牧野光朗

リニア駅前空間については、平成26年から3年余をかけて、その目指す姿や整備コンセプトについて整理を行い、「基本構想」及び「基本計画」としてまとめてきました。その上で、さらに具体的な施設の配置や機能などの方向性を示すために、平成29年7月から「基本設計」に取り組んでまいりましたが、その成果の内容を簡潔にお伝えすべく取りまとめたのが、この「飯田・リニア駅前空間デザインノート」です。

この間、6回に亘り「リニア駅周辺整備デザイン会議」を開催し、学識者の先生方、地域の代表者、経済団体の代表者、交通事業者、さらには県や広域連合等の関係機関の代表者等多くの皆様からご助言をいただくとともに、市民の皆様に自発的にご参加頂く形での5回にわたるワークショップや、駅前空間内での事業展開に関する民間事業者の方々との意見交換会等も開催するなど、出来る限り様々なお立場の方から、多様なご意見を頂戴することに努めてまいりました。お力添えを賜りました関係する皆様に対し、深く敬意と感謝を申し上げる次第です。

基本設計では、駅前空間の設計方針として「アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間」、「住民や来訪者の居場所となる駅前空間」、「伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間」、「人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間」、「時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間」の5つを掲げ、リニア駅前空間整備の理念的な柱に位置づけています。今後の実施設計の策定においても、市民の皆様と議論を重ねながら、地域の玄関口としてふさわしい魅力ある駅となるよう、その具現化に努めてまいります。

また、基本設計では、天候バリアフリーの実現や木陰の現出といった実用的な機能を具備するために「大屋根」を提案しておりますが、これについては当地域の魅力を象徴的に体现する他に類を見ない施設としても位置づけており、その設置や維持管理についても、市民の皆様と共に考えてまいります。

そして、事業を進めて行く上では、関係する権利者や移転をお願いする皆様をはじめ、多くの関係各位のご理解とご協力が欠かせません。こうした皆様のご不安やご心配を払拭するため、JR東海、長野県等の関係機関と綿密な連携を取り、真摯な対応に努めてまいりますので、今後ともより一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。基本設計とりまとめに当たったの挨拶とさせていただきます。

2019年12月

デザインノートの位置づけ

本デザインノートは、リニア駅周辺整備デザイン会議およびリニア駅周辺整備ワークショップなどでの議論をとりまとめた、リニア駅周辺整備における基本方針です。

飯田市は、このデザインノートに則り、リニア駅周辺整備に関わるさまざまな計画や事業を実施していきます。行政・事業者・市民協働のもと、リニア駅周辺を魅力的な空間とし、飯田市および信州・伊那谷のさらなる発展を目指します。

そのために、

- 行政（飯田市および各関係機関）は、「信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口」を目標に掲げ、本デザインノートに基づきリニア駅前空間を実現します。
- 事業者（つくる側）は、本デザインノートを踏まえ、デザイン監修との調整を図りながら、信州・伊那谷の風土を活かした魅力的な空間を創出します。
- 事業者（つかう側）は、本デザインノートを踏まえ、信州・伊那谷の魅力を広く発信し、市民や来訪者の居場所を創出するとともに、持続的に運営します。
- 市民は、本デザインノートを踏まえ、駅周辺に、愛着を持続けることが出来るような取組みを主体的に考え実践します。

結いの広場 — 暮らしと風景をつなぐ駅

本地域は、南アルプスや中央アルプスを望む信州・伊那谷の南部に位置し、三州街道や天竜川の交流を通じ、東西日本を結ぶ文化の要地として発展してきました。この信州・伊那谷に、リニア中央新幹線駅が開業されることにより、人、モノ、情報等の交流と交通利便性が飛躍的に高まります。

また、旧来から農業等を生業として、田んぼや集落が点在する田園環境を有する一方、交通の要衝としての地理的条件と、進取性と学究性に富んだ市民の気質が、食文化や人形文化等の信州・伊那谷の魅力を育んできました。

こうした地域や暮らしの履歴を尊重し、先人たちの意思を引き継ぎながら、信州・伊那谷の新たな「結び目」を作ります。その結び目は、信州・伊那谷の風景に溶け込み、人が主役となる場所として、そして、来訪者が信州・伊那谷の風景と出会い、この地の文化や暮らしを感じながら、新たな交流と地域の活力を育むことができる場所とします。

大都市と緑豊かな環境が結びつく新しいライフスタイルの提供、伝統技術と先端技術の融合など、リニア中央新幹線を介した広域的な繋がりにより、「過去と未来」、「高速移動とスローライフ」など、この地だからできる信州・伊那谷の風景・暮らしをつなぐ、やわらかな結び目としての広場＝「結いの広場」を目指します。



リニア駅前空間の考え方



【リニア駅周辺整備区域が目指す姿（基本的な理念）】

ローカル グローバル ゲートウェイ
信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口

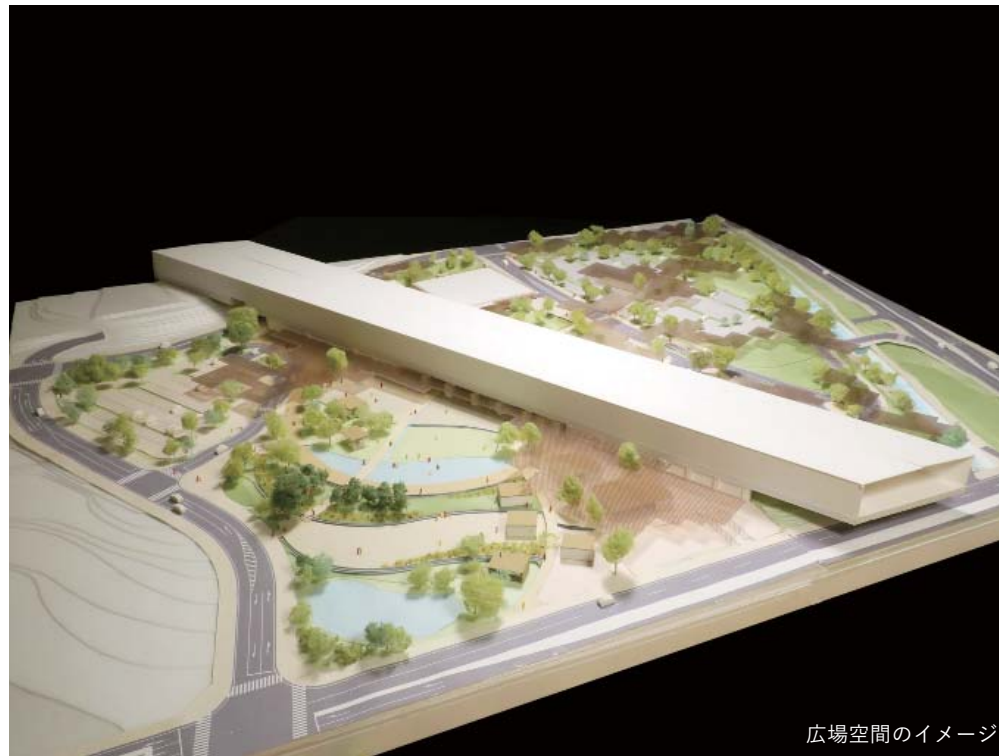
【整備コンセプト】

①機能的でコンパクトな駅空間 — 高度なトランジットハブの形成によりスムーズな乗換えを実現

- ・各交通機関への円滑な移動を可能にし、乗換利便性が高いコンパクトな空間
- ・天候バリアフリーやユニバーサルデザインの視点を踏まえた駅空間
- ・利用者がくつろぎ、必要な情報に接することができる施設や必要なものを揃えられる駅空間

②信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間 — 来訪者へのおもてなしを実現

- ・来訪者を信州・伊那谷各地へと誘い、波及効果を高めるような、地域の魅力や情報を発信する駅空間
- ・信州・伊那谷の地場産品や伝統芸能等に触れられる駅空間
- ・美しい山並みや日本の原風景とも言える里山の風景を眺望できる駅空間



広場空間のイメージ

③自然との調和を目指した駅空間 — 豊かな自然環境に配慮し環境モデル都市飯田を実現

- ・新たに作り出される景観と伊那谷の美しい自然が調和した駅空間
- ・多面的な機能を持つグリーンインフラが整備された駅空間
- ・再生可能エネルギーの活用や低炭素社会の取り組みの場となる駅空間

④地域と一体化した駅空間 — 地域の一体化を実現

- ・地域住民が日常生活で便利に使える駅空間
- ・イベントや行事など地域住民がコミュニティ活動の場としても活用できる駅空間
- ・防災機能を果たし、非常時には地域住民とリニア駅利用者が安全に避難できるとともに、帰宅困難者にも対応できる駅空間

※リニア駅周辺整備基本計画（平成 29 年 6 月）より

駅前空間の設計方針と全体計画

設計方針

1：アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間

- ・広域へアクセスしやすい交通広場と、地域の人々が使いやすい乗降場、安全で利便性の高い乗換えを実現します。
- ・わかりやすく、スムーズに乗り換えられる駅空間とします。
- ・天候にも対応したバリアフリー環境とし、サイン類をはじめユニバーサルデザインとします。

2：住民や来訪者の居場所となる駅前空間

- ・駅の中心に南北をつなぐ広場を設け、人が主役の緑とにぎわいの空間をつくります。
- ・リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間とします。
- ・広場は、大小様々な使い方ができ、居心地の良い空間とします。
- ・伝統文化の継承や地域コミュニティを高める空間とします。

3：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間

- ・地域風土の特徴を活かし駅を出た瞬間から信州・伊那谷らしい風景を五感で味わえるランドスケープとします。
- ・人が主役の広場と地場材を利用した大屋根により、自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間をつくります。
- ・地域住民の暮らしや環境を活かし、守りながら、リニア駅周辺に波及効果をもたらし、歩くのが楽しくなる回遊性の高い駅前空間をつくります。

4：人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間

- ・人と人の出会いや、人とモノの出会いが生まれる空間とします。
- ・長野県や伊那谷、飯田市の魅力的なエリアやお店、伝統芸能やアクティビティを伝える情報提供などにより、各地へ誘い出すきっかけをつくります。
- ・将来にわたり活用されるよう、運営者・事業者の様々なニーズに対応できる空間とします。

5：時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間

- ・さまざまな使い方ができるフレキシブルな空間とします。
- ・自動運転や次世代モビリティ、再生可能エネルギーに加え、ライフスタイルの変化など社会のニーズに対応できるようにします。
- ・グリーンインフラを積極的に用い、環境に優しく、防災機能と維持管理に優れる、持続可能な空間をつくります。
- ・再生可能エネルギーの活用やRE100の思想を体現する場の創出に加え、非常時にもエリア内のエネルギー自立化を見据え、可能な限りネット・ゼロ・エネルギー・ディストリクトの構築に近づける低炭素空間を創出します。

乗換新駅（

北側エントランス広場

駅の北側を見渡せる高台の広場。乗換新駅（予定地）を使ってリニア駅にアクセスする人を迎えるゲートにもなる。

フットパス

地区を南北につなぐ歩道。昔からある道を参考にしており、木製の大屋根や植栽、水路などにより信州・伊那谷らしさを感じられる空間とする。

駐車場

将来のモビリティの状況に応じた駐車場。リニア駅の最寄の駐車場として天候バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮する。将来は自動運転のカーポートとしても機能する。

エネルギーセンター

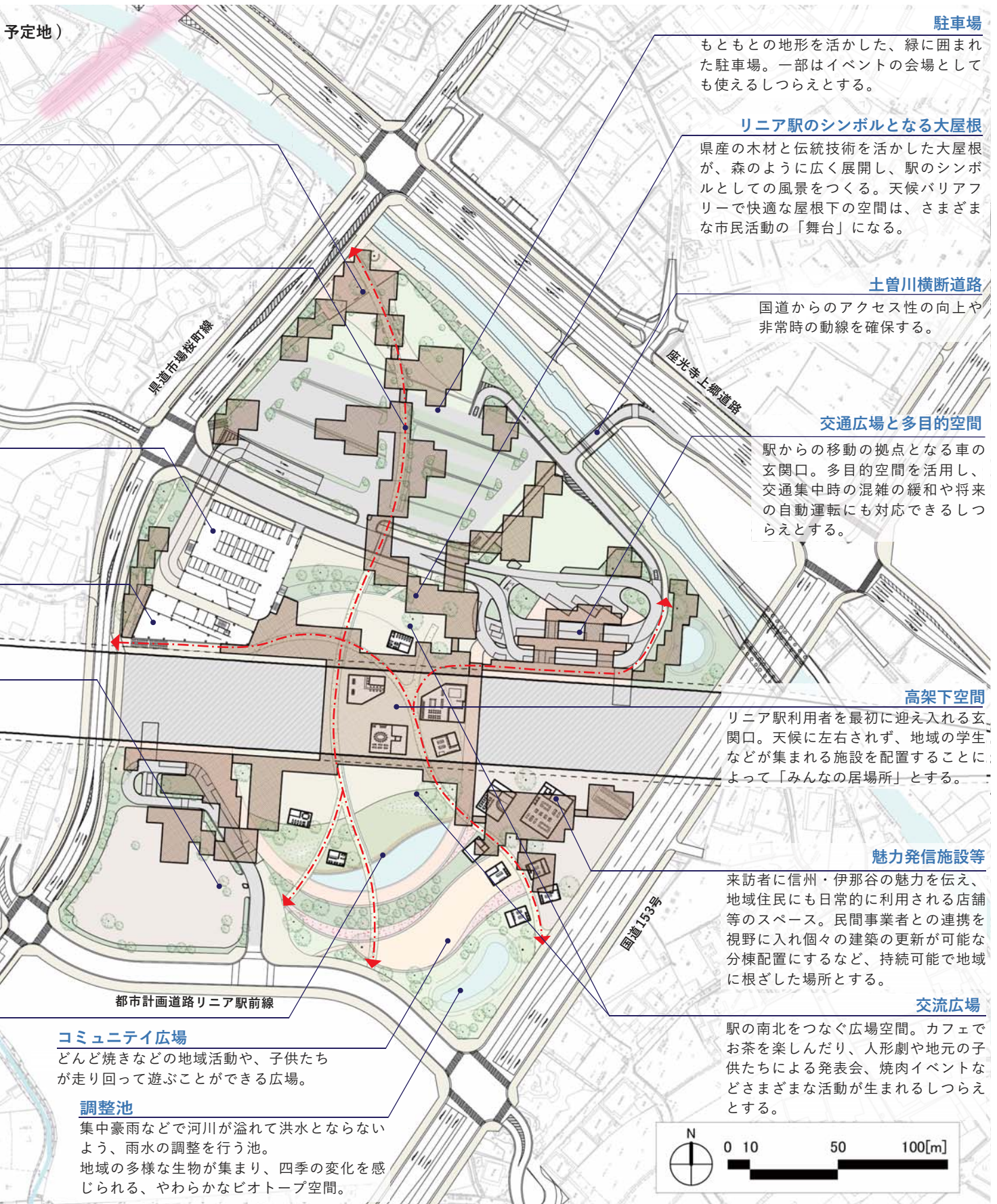
駅周辺地区内のゼロエミッション化を目指す再生可能エネルギーのコントロールセンター。

多目的広場

- ・地域住民の日常利用に対応した駐車スペースとし、イベント等にも対応できる空間とする。進入路は福祉車両やタクシーの乗降場になる。

芝生広場と水盤

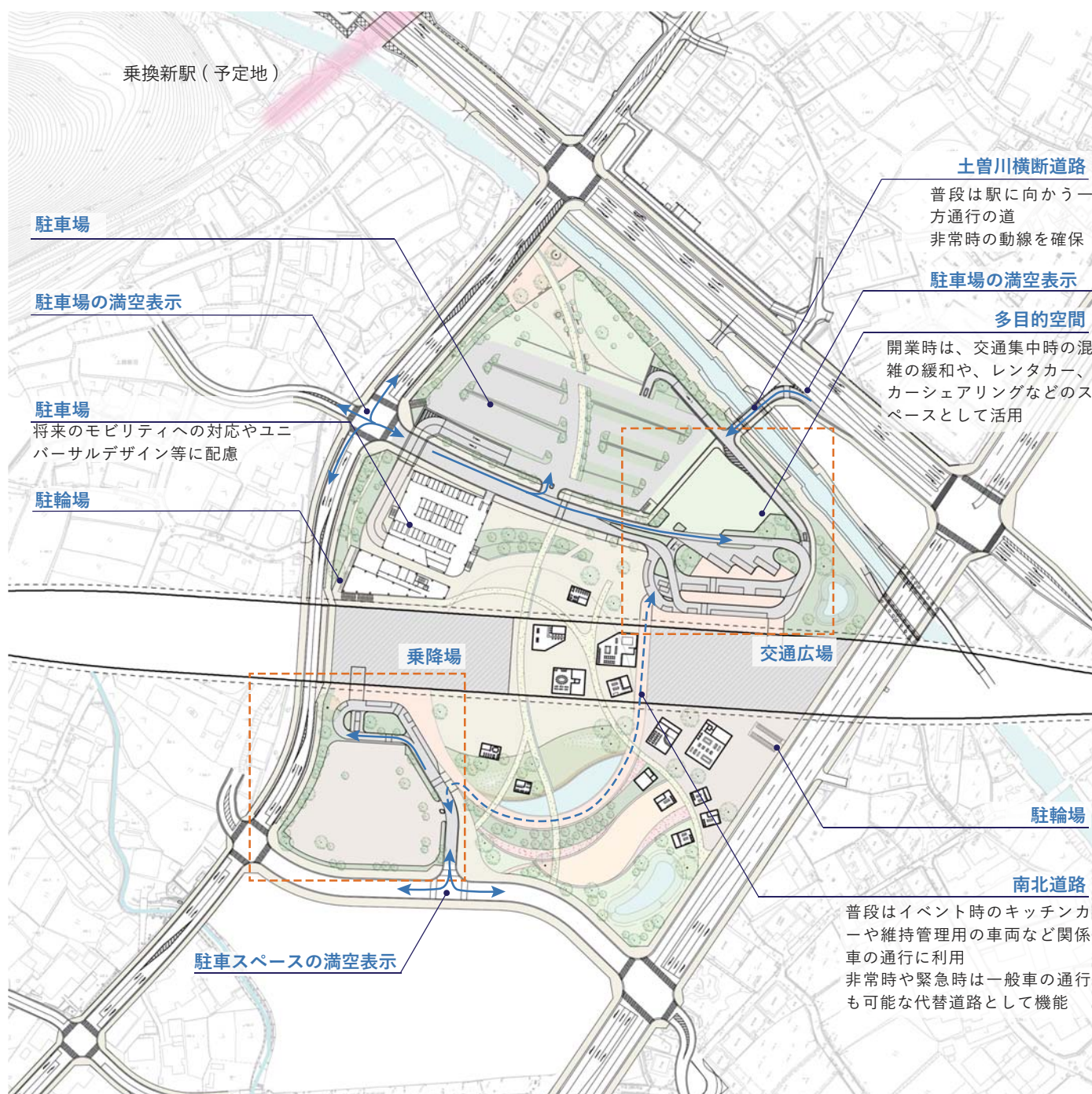
芝生広場は大きなイベント利用も可能な緑のステージ。山々の風景を写し込む水盤は、伊那谷の美しい四季を伝えるとともに、夏は子供たちの楽しげな声が響くじゃぶじゃぶ池となる。周囲をめぐる園路（南北通路）には出店やキッチンカーを並べることもでき、大きなイベント会場としても利用できる。



設計方針 1：アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間



- ・公共交通を集約した交通広場と、地域の人々が使いやすい乗降場を設け、**安全で利便性の高い乗換え**を実現します。
- ・訪れる全ての人が、**わかりやすく、乗換えのしやすい駅空間**とします。
- ・高速バスや飯田線への**スムーズな乗換え**により、広域へのアクセスがしやすい駅空間とします。
- ・改札から屋根のある平坦な道を歩いて乗り換えができるよう**天候にも対応したバリアフリー環境**とし、サイン類をはじめ**ユニバーサルデザイン**とします。



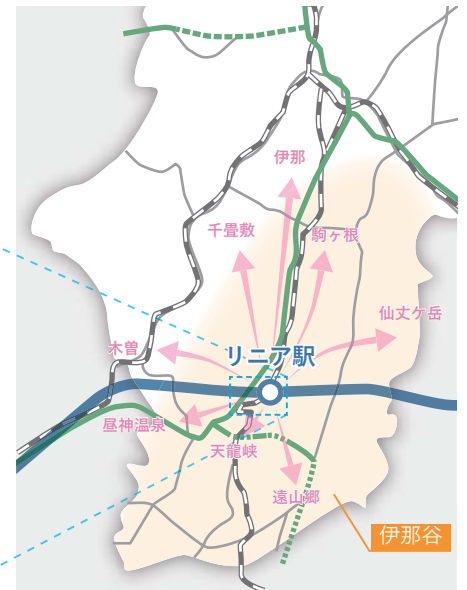
◆広域・市内の各地との連携を生む移動の確保

- ・スムーズな乗換えと移動手段の確保により、新たにできるリニア駅と県内外各地や伊那谷、飯田中心市街地などとの連携を支えます。
- ・リニア駅における情報案内の充実や MaaS[※]（Mobility as a Service）等への対応を図り、リニア駅から目的地への利便性が高い乗換環境を確保します。

※：情報通信技術を活用することにより、自家用車以外の全ての交通手段による移動を1つのサービスとして捉え、シームレスにつながる『移動』の概念。



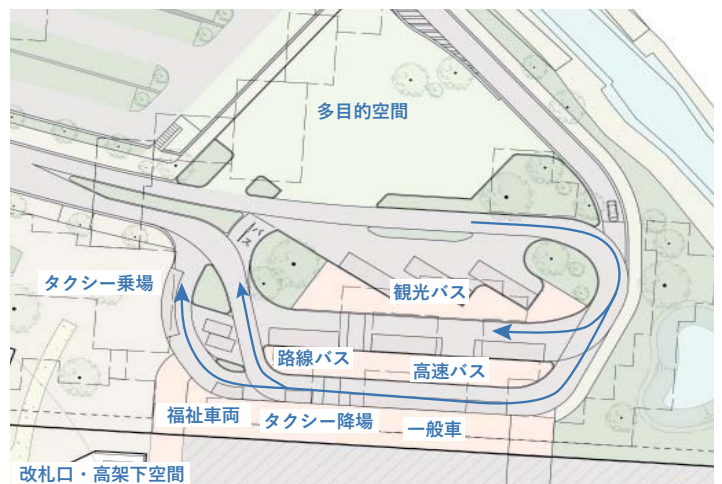
リニア駅と飯田中心市街地との連携



リニア駅を起点とした各地との連携

◆交通広場：公共交通の集まる交通広場

- ・公共交通が集まる交通広場を設け、高速バスなどによる広域へのアクセスや路線バスによる市内高速バス・路線バスによる広域・地域内へのアクセスを確保します。
- ・交通機能ごとに車両動線を分離し、乗降場における交通の交錯を防ぎます。
- ・自動運転や次世代モビリティへの対応を考慮した空間とします。
- ・駅から連続する大屋根により天候バリアフリーを確保します。
- ・緑地を積極的に設け、緑豊かな空間とします。
- ・公共交通の乗降場に加え、観光シーズンの交通集中時に対応できる多目的空間を隣接地に確保します。



◆多目的広場：市民の日常利用に対応する空間

- ・広場利用者等を含めた日常利用に対応する駐車スペースとし、イベント等による利用にも対応できる空間とします。
- ・駅から連続する大屋根により天候バリアフリーを確保します。
- ・乗降スペースには、福祉車両等のスペースを確保するとともに、緑豊かな景観に配慮した空間とします。



設計方針 2：住民や来訪者の居場所となる駅前空間

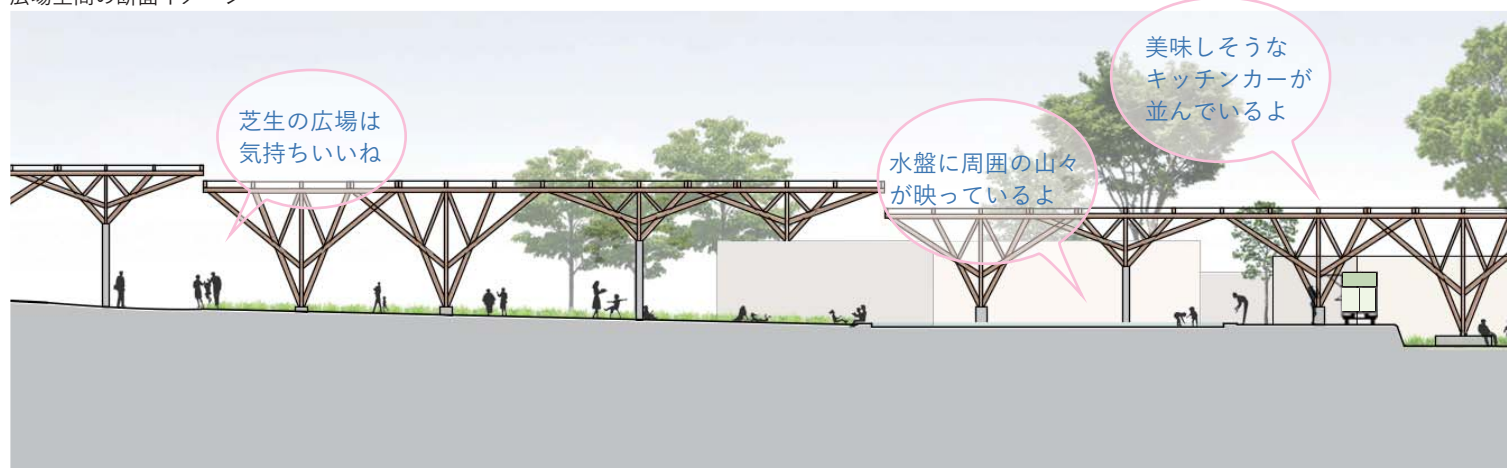
居場所

- ・駅の中心に南北をつなぐ広場を設け、その周りに交通広場や魅力発信施設や店舗等を配置することで、**人が主役の緑とにぎわいの空間**をつくります。
- ・地元の食材やお酒を味わったり、家族でのんびり過ごしたり、散歩で立ち寄ったり、学生が課外活動をしたり、様々なイベントで盛り上がるなど、**リニアに乗る人も乗らない人も、日本人も外国人も、子どもから高齢者まで世代によらず楽しめる空間**とします。
- ・広場空間は、**大小様々な使い方ができ、冬の寒さや夏の暑さといった気候にも配慮した居心地の良い空間**とします。
- ・水引きや人形劇など**地域の伝統文化の継承**や、**どんど焼きや盆踊りなど地域のコミュニティの絆を高める空間**とします。
- ・リニア駅を起点とし、各地の原風景（棚田、里山等）やイベントなど、周辺と連携した魅力的な空間とします。



広場空間のイメージ

広場空間の断面イメージ

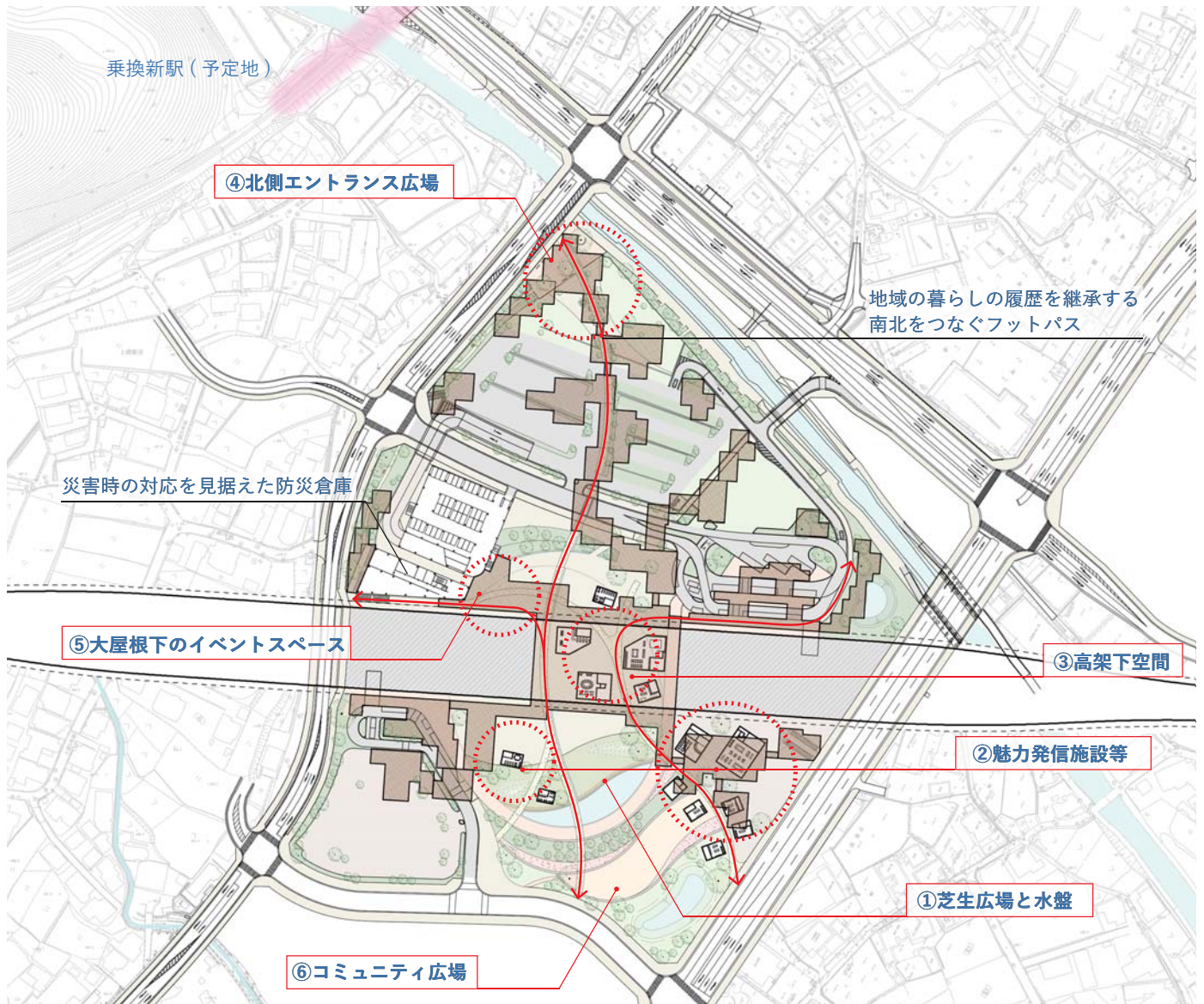


交流広場

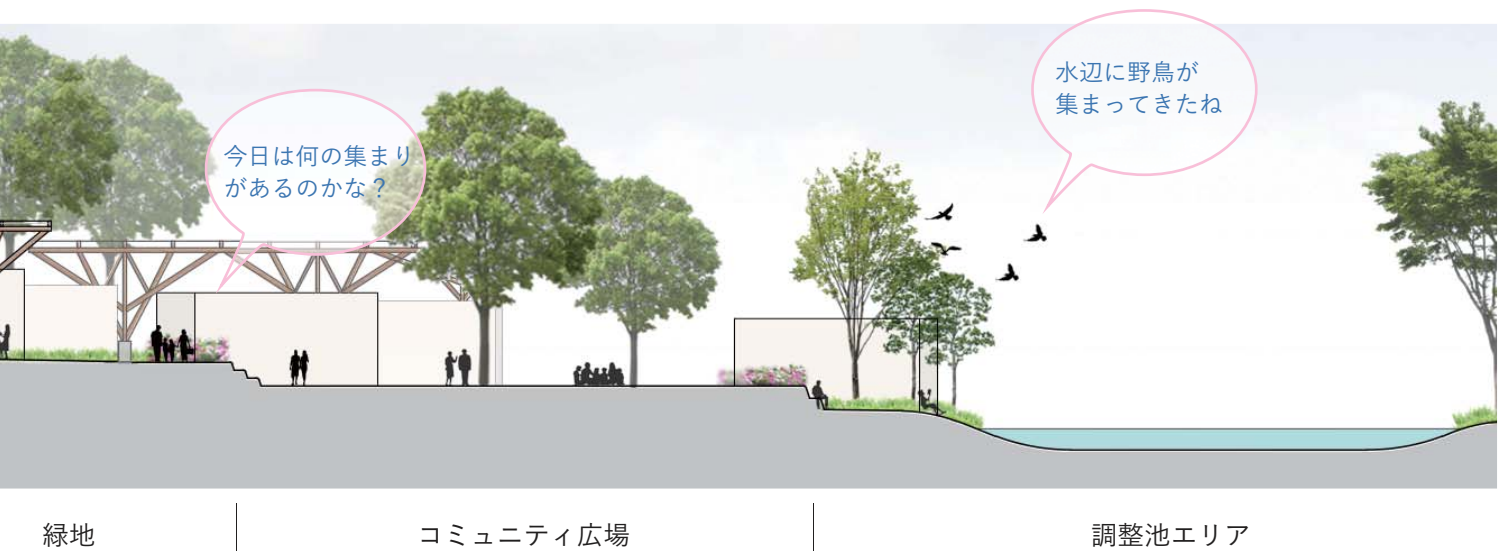
芝生

水盤

南北道路



※駅周辺における公共の安全や秩序の維持を図るため、交番等の設置を関係機関と調整をしていきます。



緑地

コミュニティ広場

調整池エリア

設計方針 2：住民や来訪者の居場所となる駅前空間

◆日常生活で便利に利用できる空間

①芝生広場と水盤

- ・地形を生かした芝生広場と水盤。四季の山々を写し込む水盤は、夏には子供達の遊び場となります。芝生広場は大きなイベントも可能な緑のステージとなります。



②魅力発信施設等

- ・大屋根下の店舗スペース。個々での建築の更新が可能な分棟配置とします。



③高架下空間

- ・待合施設やインフォメーション、ライブラリーなど、天候に左右されず集まることの出来る「みんなの居場所」とします。



④北側エントランス広場

- ・地域の人々が立ち寄り易い場所とし、来訪者にも、乗換新駅との接続が分かりやすいゲート空間とします。



◆イベントや行事など地域住民がコミュニティ活動の場としても活用できる空間

⑤大屋根下のイベントスペース

- ・日常的に日よけ、雨除けとなる大屋根の下の空間は、イベント時にはさまざまな市民活動の場となります。



◆暮らしの履歴を感じられる空間

⑥コミュニティ広場

- ・地域の人々が暮らしてきた歴史に敬意を払い、現存する建物（蔵など）や樹木などの一部を遺すことや、地域の活動が展開できる場とすることで、新しい建物・植栽と調和させつつ、地域の「暮らしの履歴」も感じられる空間とします。



災害時の対応について

- ・エネルギーセンター付近に防災倉庫の設置を検討します。
また、交流広場などは、地域の人々や来訪者の一時避難所として機能します。



防災倉庫のイメージ



災害用トイレのイメージ 出典：国土交通省

設計方針3：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間

風景

- ・天竜川に向かって傾斜する地形、豊かな流れの用水、南アルプスや伊那山地への眺望、樹木や草花など地場の植生、多様な生態系という地域の特徴を活かし、駅を出た瞬間から信州・伊那谷らしい風景を五感で味わえるランドスケープとします。
- ・人が主役の広場と地場の木材を利用した大きな屋根を合わせ、自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間をつくります。
- ・地域住民の暮らしや環境を活かし、守りながら、リニア駅周辺に波及効果をもたらし、歩くのが楽しくなる回遊性の高い駅前空間をつくります。

◆地域らしさを感じさせる空間

- ・信州・伊那谷らしい段丘地形を活かしたスケールづくりと空間構成。
- ・南北の広場をつなぎ、周辺へと広がることで駅と地域をつなぐフットパス。
- ・高低差のある地形や水を活かしたグリーンインフラ。
- ・周辺地域とスケールをあわせた分棟配置の施設群。
- ・伊那谷の多様な自然を活かした植生（高木、草木類）を配置。

地域らしさのイメージ



田んぼと集落



どんと焼きの風景

出典：飯田市



伊賀良を流れる新井川

出典：飯田市教育委員会



麻績の里付近の石積み



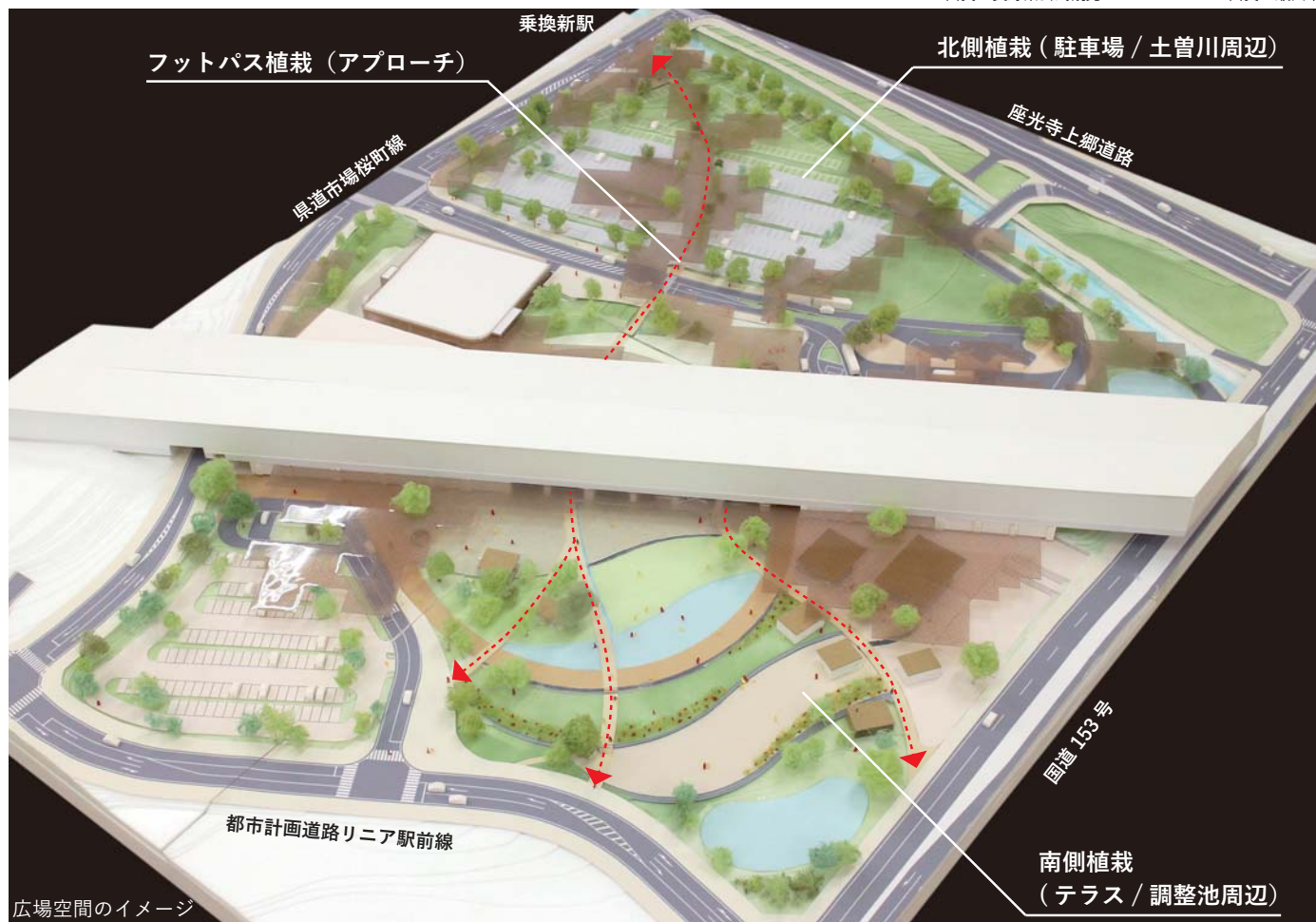
段丘地形と棚田

出典：長野県公式観光



ブナ・アベマキなどの雑木林

出典：飯田市



広場空間のイメージ

◆植栽計画の基本的な考え方

- ・飯田・下伊那地域には、約 2,300 種の植物が分布していることから、地域の樹種、草花により、信州伊那谷の四季の景観を演出する彩り豊かな植栽とします。

駅南側の植栽

- ・飯田・下伊那地域の丘陵帯で生育が見られる常緑・落葉広葉樹等を中心に構成します。
- ・丘陵帯の雑木林、農地、果樹園など周辺地域の里地里山を表出する樹種選定を行い、周辺と一体的な植栽景観を演出します。

駅北側の植栽

- ・飯田・下伊那地域の丘陵帯の上部や低山帯で見られる常緑・落葉広葉樹や常緑針葉樹等の多様な植栽で構成します。
- ・外周の並木と一体的に、土曾川や北側の山並み、遠景のアルプスの峰々との調和を演出します。

ポイント・シンボル植栽

- ・アイストップやランドマークなどの焦点となる植栽は、駅前空間の顔となり、地域の拠りどころとなるため、選定方法にも考慮して、地域の方の愛着深い郷土種を選定します。



りんごの木



ハナノキ

◆歩くのが楽しくなる空間

- ・整備区域の北側には土曾川が流れています。また、周辺には田んぼが広がっているほか、民家が建ち並び、これらを縫うように水路が走っています。このような整備区域周辺の環境を生かしつつ、駅の南北をつなぐフットパスや土曾川沿いに歩行空間を設け、歩くことが楽しくなる回遊性の高い空間とします。



土曾川と周囲の山並み



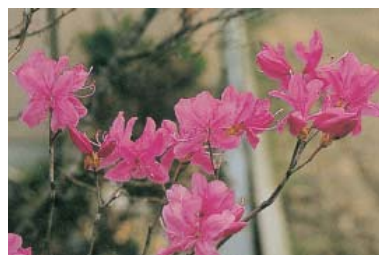
石積みと水路

歩行空間沿いの植栽

- ・人が触れやすい環境となるフットパス沿いには郷土種を中心に、彩り豊かな植栽を配置します。



ミズヒキ



ミツバツツジ



ノコンギク

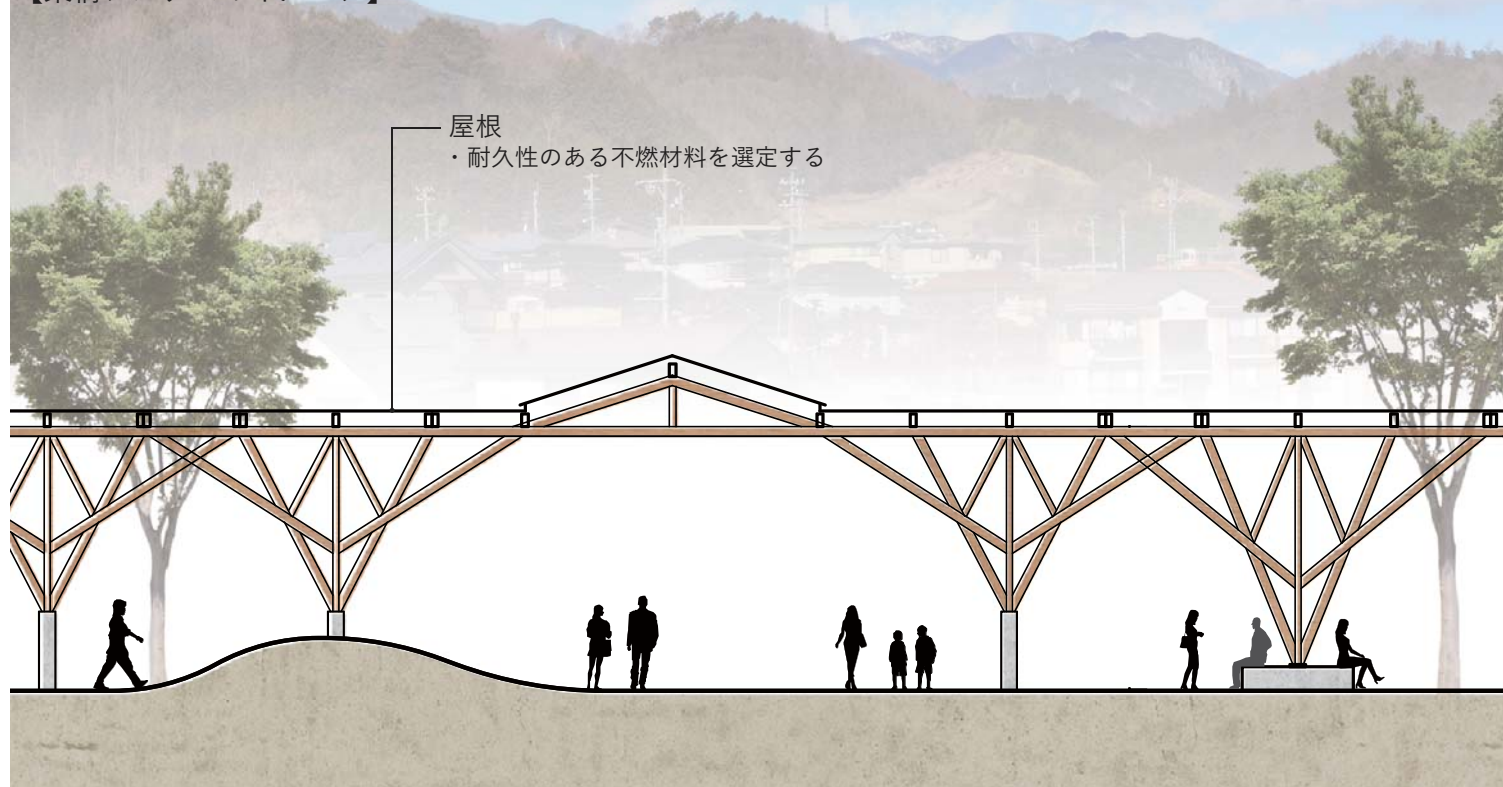
設計方針 3：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間

◆リニア駅のシンボルとなる大屋根

- ・木製の大屋根が「森」のように南北に広がり、他にはないリニア長野県駅のシンボルとします。
- ・長野県内各地の木材を用い、日本の伝統技術による工法を検討します。
- ・雨や雪、夏の日差しなどにも対応した天候バリアフリーに寄与する空間とします。
- ・大屋根がさまざまな市民活動の場をつくれます。
- ・今後、詳細設計において大屋根のデザインや工法を詰めるなかで、市民参加の仕組みや大屋根の独自性を反映したネーミングなども検討していきます。



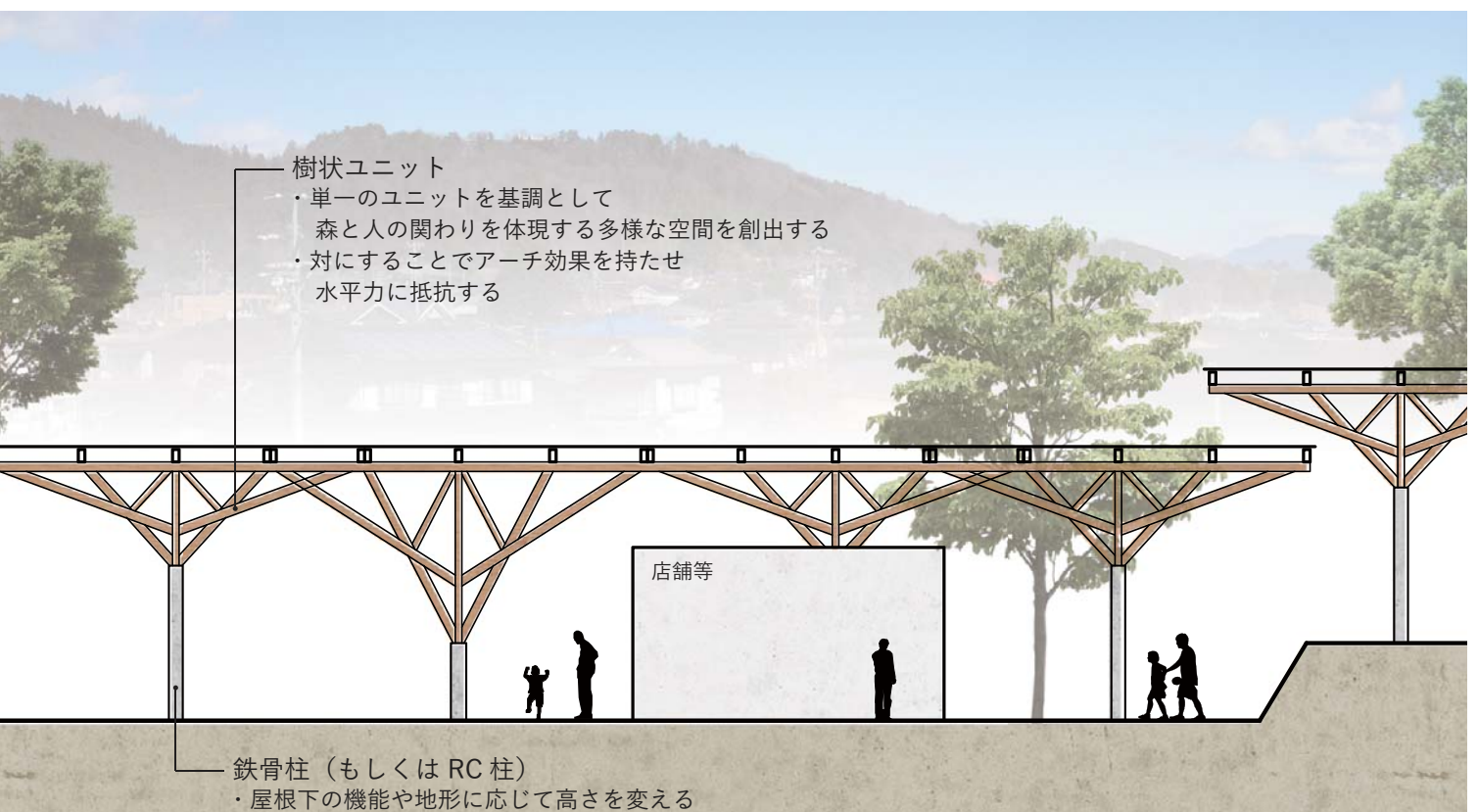
【架構システムのイメージ】





【材料・工法について】

- ・地場産の木材をできるだけ手を加えずに、（集成材等でなく）無垢の製材のまま利用します。
- ・飯田市のみでなく、長野県全体から木材を集めることで、長野全体の森林文化を体現することを検討します。
- ・地域林業の状況に合わせて、入手しやすい樹種を使用します。
- ・多期にわたる段階的な建設や将来的な拡張等にも柔軟に対応できる仕組みを実現するデザインと工法を引き続き検討していきます。



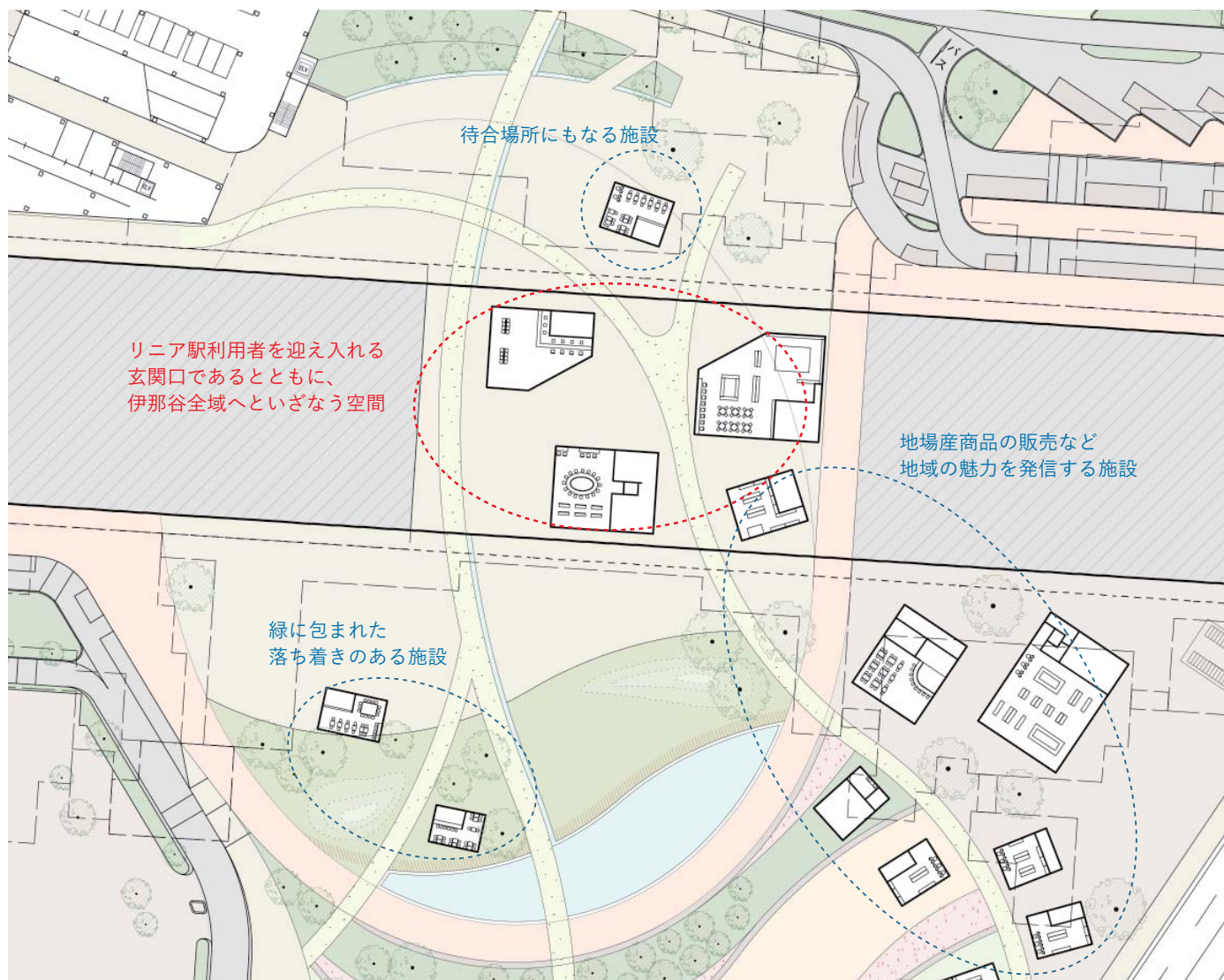
設計方針4：人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間



- ・来訪者と地域住民といった人と人の出会いや、来訪者と地場産品といった人とモノの出会いが生まれる空間とします。
- ・長野県や伊那谷、飯田市の魅力的なエリアや店舗、伝統芸能やアクティビティを伝える情報提供などにより、各地へ誘い出すきっかけをつくります。
- ・将来にわたり活用されるよう、運営者・事業者の様々なニーズに対応できる空間とします。



リニア駅を起点に各地へいざなう



※施設の配置等は検討中のものであり、イメージです。

◆高架下空間と魅力発信等施設の施設イメージ

- ・リニア駅利用者を最初に迎え入れる玄関口として、飯田、伊那谷や長野県内各地の様々な魅力を発信します。また、地域住民にも日常的に利用される空間となります。
- ・これらの空間では、地域の魅力の体験や紹介を通じて、来訪者が各地を訪問したくなる仕掛けをつくるほか、店舗やライブラリーなど、天候に左右されない「みんなの居場所」を創出します。

インフォメーション

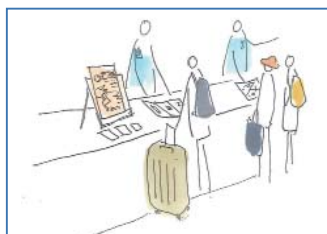
- ・高架下には、リニア駅利用者の待合施設とあわせてインフォメーションを設置し、わかり易く効果的な情報発信で利用者を迎えます。

- ・交流広場越しに**伊那谷の風景を望む**ことができます。

(例)・多言語やデジタル・サイネージ（電子看板）等を活用した乗換案内、**グリーンツーリズムや伝統文化、イベント等**の観光案内、風景・文化を鮮やかに映し出す大型ディスプレイによる紹介、水引など地元の特産品の展示などを行う場所



訪れたい場所を発見する



伊那谷をよく知る「人」に出会う

参考施設



由布院ツーリストインフォメーション



アントワープ港湾局

魅力発信施設

- ・高架下や南北の交流広場周辺の魅力発信施設は、来訪者が、特産品、食、伝統文化・芸能等、**地域の魅力に触れたり、買い物ができる空間**とします。

- ・駅周辺の景観と調和し、また、民間事業者の参画のしやすさを考慮に入れた施設規模とするため、大規模ではなく、小規模の施設が分散し、建物個々に更新が可能な**分棟配置**とします。

(例)・地元の特産品や農産物の店舗、朝市、地元食材を使った飲食の提供・販売などの「食」を楽しめる場所

- ・人形劇、体験イベント、焼肉イベント、結婚式、学生によるイベントなど、イベントが行われる場所



伊那谷の「食」を楽しむ



新しい「地場産品」を共有する

参考施設



A Factory



銀座 NAGANO

ライブラリー

- ・地元地域の方が集い、リニア駅の利用客も便利に使える「**居場所**」となる空間を創ります。（設計方針2に関連）

(例)・お祭り、獅子舞、どんど焼き、自然環境など、地域文化や伝統行事・風習を伝え、来訪者に紹介する場所

- ・学生が勉強で使う、大人が茶話会で使う、待ち合わせする、散歩で立ち寄る、ちょっとした仕事（テレワーク）や仕事の後に立ち寄るなど、一人ひとりの居場所として使える場所



自発的な「まちづくり」



伊那谷の「自然」を学ぶ

参考施設



都城市立図書館

設計方針 5：時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間

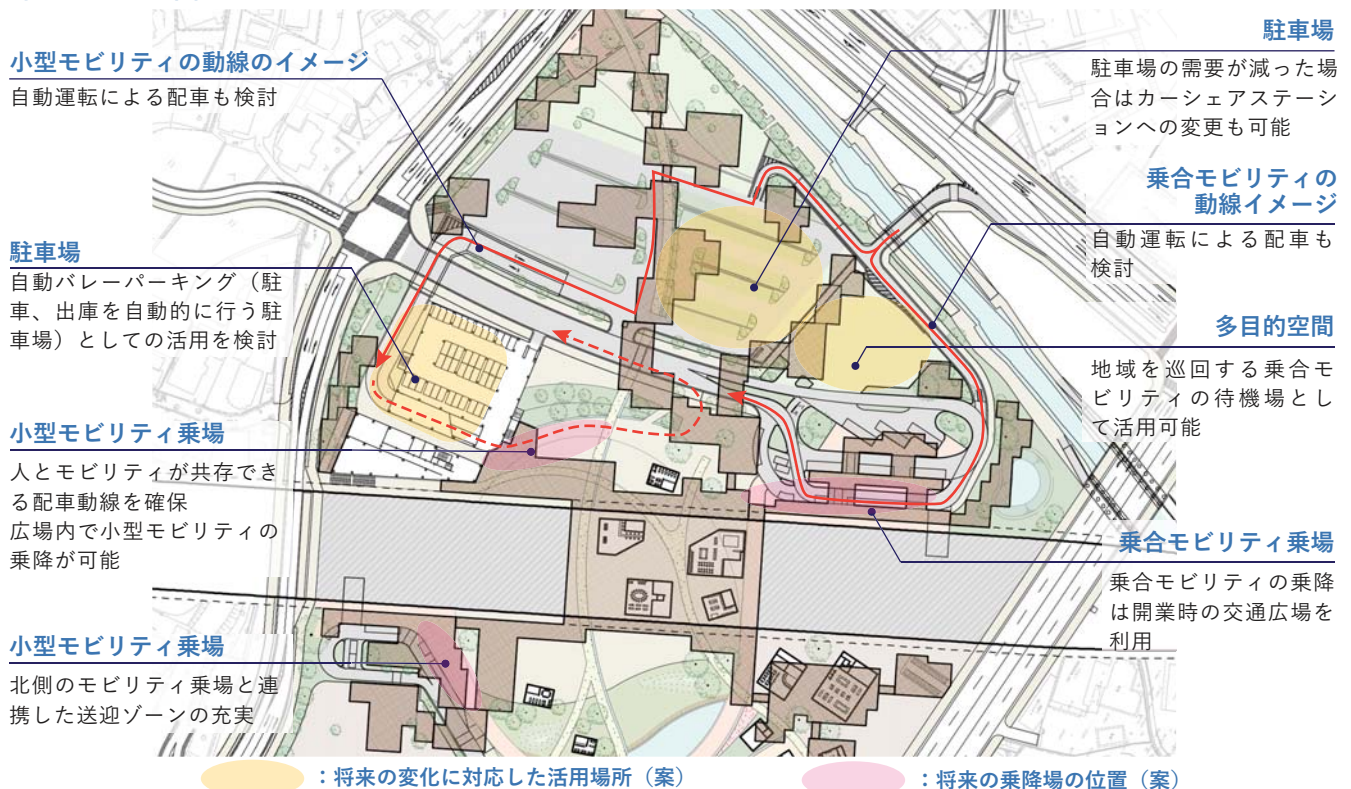


- ・限られた土地を有効活用するために、平常時とイベント時など、さまざまな使い方ができる**フレキシブルな空間**とします。
- ・自動運転や次世代モビリティといった発展目覚ましい技術や、**再生可能エネルギー**や**低炭素技術**など環境技術に加え、ライフスタイルの変化など社会のニーズにも対応できるようにします。
- ・**グリーンインフラ**（自然の多様な機能を活用したインフラ）を積極的に用い、環境に優しく、防災機能と維持管理に優れる、**持続可能な空間**をつくります。

◆将来への可変性：自動運転や次世代モビリティへの対応

- ・リニア開業後の交通手段や需要の変化に対応できる、可変性を備えた計画とします。
- ・乗合モビリティの乗降場は、乗降スペースが確保された交通広場を活用できます。
- ・広場内に人とモビリティが共存できる配車動線を確保することで、駐車場と連携し、短時間で配車・乗車が行える新たな送迎ゾーンとして活用できます。
- ・新たに必要となる自動運転車等の待機場や充電スタンドなどは、需要の変化に応じて乗降場に近い駐車場や多目的空間が活用できます。

将来のイメージ図



乗合モビリティ



出典：EASYMILE HP



出典：EASYMILE HP

小型モビリティ等



出典：RE WORK HP



出典：Dijon Metropole Tourist Office HP

◆再生可能エネルギーや低炭素技術の活用

- ・地域の経済循環を創りだすとともに、地域内モデルとしての普及も含め、環境モデル都市飯田の取組を地域内外に感じてもらえる駅空間となるよう、下記のエネルギーシステムの構築を目指します。

エネルギーシステムの目標

①ゼロ・エミッションの実現

再生可能エネルギー・未利用資源を活用した『ゼロ・エミッション』や、カーボン・ニュートラルからカーボン・ポジティブへの発展を目指します。

②エネルギーの複合活用と一元管理

地域の自然環境などに潜在するグリーンエネルギーの複合活用と、施設・駐車場等の省エネ化との融合を図ります。また、エリア内のエネルギー管理の一元化により、低炭素空間の創出を図ります。

③都市とモビリティへの対応

非常時のバックアップに対応するDCP（地域継続計画）機能を強化するとともに、将来的な次世代モビリティとの連携等も視野に入れたエネルギー供給体制を構築します。

④電気等のエネルギー計画

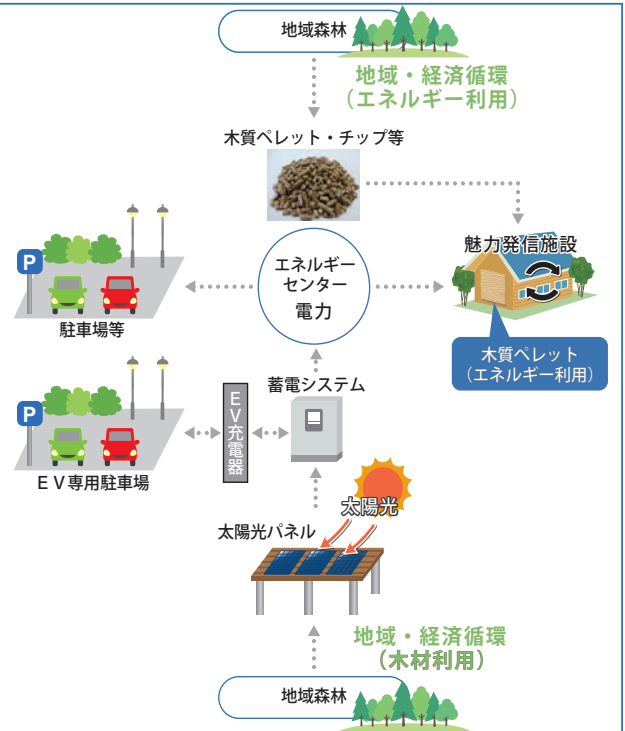
公民連携による電気等の供給により、エネルギーの融合と面的利用を図ります。

⑤拡張性・柔軟性のあるエネルギーインフラ構築

拡張性に優れたエネルギーインフラを構築します。

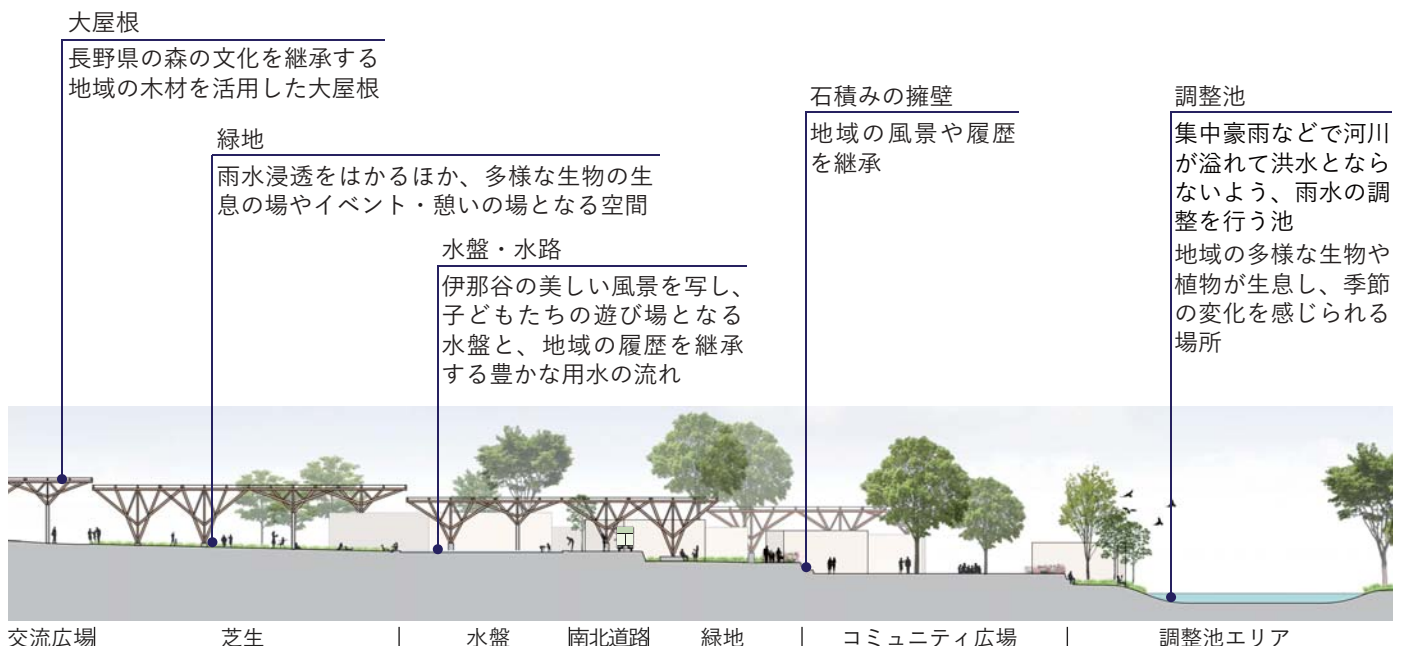
⑥「体験する・見せる」情報発信拠点

地域資源の循環とエネルギー分野における技術革新を体感し、環境・エネルギー面からの情報発信する拠点とします。



◆グリーンインフラによる、環境や防災、維持管理に優れた空間づくり

- ・グリーンインフラ（自然の多様な機能を活用したインフラ）を積極的に用い、環境に優しい気持ち良い空間の創出と、災害に強く維持管理に優れた持続可能な駅空間とします。



持続可能な魅力発信施設の運営に向けた仕組みづくり



- ・将来にわたって使い続けられる施設整備のあり方と、運営の仕組みづくりに取り組みます。
- ・従来のつくれば使うという「つくる目線」ではなく、利用者や事業者の使いかたを反映した「つかう目線」の計画とします。
- ・市民が主体的にプロセスに参加できるプロジェクトに取り組みます。
- ・施設等を運営する可能性がある民間事業者との意見交換を重ねながら、持続的に「使われるものをつくる」という考え方で、施設整備に取り組みます。

◆信州・伊那谷ならではの魅力導入の大切さ

リニア駅では、信州・伊那谷の魅力を活かし、民間事業者によるビジネスと地域づくりを両立できる管理運営を目指します。

【これまで】「つくる目線」の整備

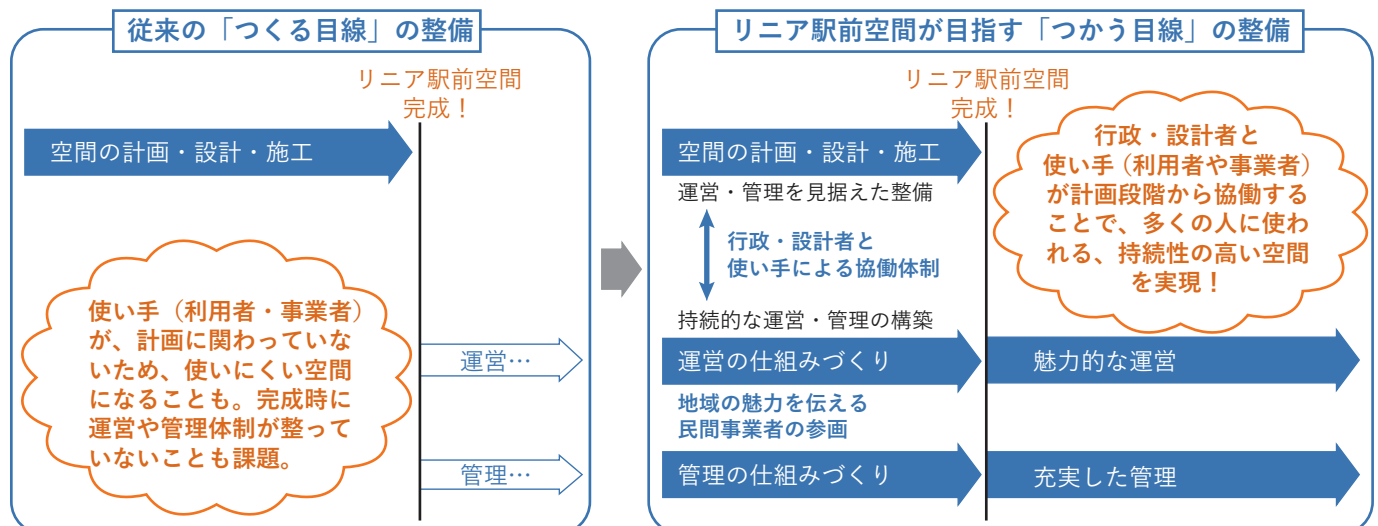
- ・将来の運営者等が計画段階に関わることなく、活用し難い施設整備や、完成時に運営体制等が整っていないことが課題となっています。
- ・国内における駅周辺整備については、特定の事業者による建物整備・管理運営による画一的な空間形成が多いことから、周辺地域の価値向上に向けて、将来の運営者等との連携方策が課題となっています。

【これから】リニア駅前空間が目指す「つかう目線」の整備

- ・地域の魅力を活かしながら、その場所、その時、その人だからこそ提供できるサービスが価値を生む時代に変化しており、徹底したローカル（信州・伊那谷等）なサービス提供が、グローバル（世界）を惹きつける時代です。
- ・行政、設計者、将来の運営者が計画段階から連携、協働し、国内外を問わず多くの方々に使われる空間づくりに取り組みます。

◆将来の運営事業者候補がビジョンづくりから関わるプロセス

- ・リニア駅では、事業リスクと公共性を持ち、地域の魅力を伝えることができる民間事業者等を主体としたサービス提供を目指し、従来の方法とは逆のプロセスで、官民連携に取り組んでいきます。
- ・将来の運営事業者候補がビジョンづくりから関わることにより、官民連携による施設デザインの検討、管理運営の範囲や運営方式等の具体化に取り組んでいきます。



◆リニア駅前空間・市民参加型プロジェクトの検討

- ・「つかう目線」の空間づくりに向け、市民や事業者が主体的に参加できる市民参加型プロジェクトに取り組みます。
- ・具体的には、プロジェクトのアイデアと担い手を公募し、選定されたプロジェクトチームを支援することを想定しています。プロジェクトは、リニア開業に向けたものだけではなく、開業後も続けられるものも募集します。

例：地域の子どもたちによる植樹プロジェクト

- ・地域の子どもたちと一緒にリニア駅の駅前空間に植える樹木を育てていくプロジェクト。
- ・地域を代表する果樹や里山の四季を彩る樹木など、伊那谷や飯田ならではの樹木が想定されます。
- ・リニア開業時にみんなで開けるタイムカプセルなど、未来の物語と絡めたアイデアなども考えられます。



出典：魚沼の里（八海醸造）HP

例：大屋根づくりプロジェクト

- ・地域の森林組合や林業組合と連携した、大屋根づくりプロジェクト。
- ・市民に加え大学・高校、地元企業等にも参加を募り、原寸大のサンプルを作成し、維持管理の仕組みや方法を検討していくことなどが考えられます。
- ・リニア開業時までに、市内に大屋根によるあずまやを増やしていくことも考えられます。



出典：あそべるとよたプロジェクト HP

◆魅力発信施設など建物デザインのルールづくり

- ・魅力発信施設や高架下の施設といった建物群が、それぞれの個性を持ちつつも、まとまりのある風景を生み出すよう建物デザインのルールづくりをおこないます。
- ・具体的なルールとしては以下のようなものを想定しています。
 - ：南アルプスなど周囲の山並みへの眺望を阻害しないデザイン
 - ：建物群としてのまとまりを生むための色彩のルール
 - ：外部空間と一体的に利用できる建物の内部空間 など



◆地域資源を活かした再生可能エネルギーの仕組みづくり

- ・市域の84%が森林に囲まれている特性を活かし、林業等の地域産業の活性化と、エネルギー自立に向けた「資源・エネルギー循環」の実現に向け、森林組合や民間事業者などの関係者とともに仕組みづくりに取り組みます。
- ・太陽光発電や木質バイオマスといった再生可能エネルギーの展示方法などについて検討します。



出典：とよた Ecoful Town HP

付録 基本設計の検討経緯

2017

第1回リニア駅周辺整備デザイン会議（2017年7月20日）

リニア駅周辺整備基本設計プロポーザル選定（2017年11月）

2018

第1回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018年2月21日）

第2回リニア駅周辺整備デザイン会議（2018年3月23日）

第2回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018年5月16日）

第3回リニア駅周辺整備デザイン会議（2018年6月11日）

駅前空間の設計方針と全体の配置計画の決定

第3回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018年7月12日）

第4回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018年9月25日）

第4回リニア駅周辺整備デザイン会議（2018年10月16日）

駅前空間のおおまかなデザインの決定

第1回リニア駅周辺整備における各種施設での事業に関する意見交換会①（2018年11月21日）

リニア駅周辺整備計画の現状説明と意見交換会（2018年12月2日）

[平成30年度リニア駅周辺整備に関する市民説明会]

第5回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018年12月20日）

2019

第1回リニア駅周辺整備における各種施設での事業に関する意見交換会②（2019年2月27日）

第5回リニア駅周辺整備デザイン会議（2019年3月26日）

第2回リニア駅周辺整備における各種施設での事業に関する意見交換会（2019年3月28日）

第6回リニア駅周辺整備デザイン会議（2019年9月11日）

パブリックコメント（2019年10月1日～10月30日）

駅前空間のデザインの決定・デザインノートの完成（2019年12月）

「リニア駅周辺整備のコンセプト」や「整備にあたって大切にしたいこと」について意見交換を実施（参加者 37 名）



『リニア駅前でなにをする？カード』を作成し、将来のリニア駅周辺をイメージしながら、どんな人たちがどのように使い、どのように過ごす空間になるとよいかについて意見交換を実施（参加者 30 名：初参加 7 名、高校生 4 名）



ワークショップにおけるリニア駅周辺空間のおおまかな計画をとりまとめるため、計画案をベースにしながら、『良いと思うところ』『心配に思うところ』について意見交換を実施（参加者 26 名：初参加 4 名、高校生 4 名）



これまでの 4 回のワークショップの成果としてリニア駅周辺空間の計画案をまとめました。「シンボルになりそうだな」「ワクワクするような空間となった」などの声上がり、全体的にはワークショップの成果として、みなさんの賛同が得られました。（参加者 30 名：初参加 6 名、高校生 4 名）



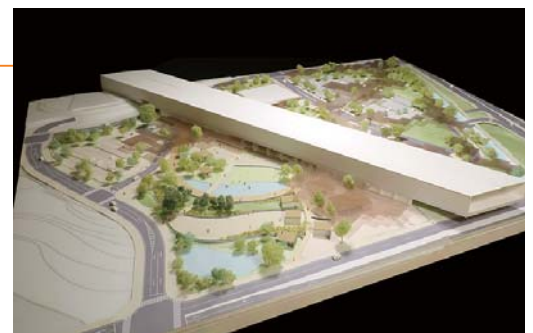
駅前空間の魅力発信施設などを対象に、事業の参画に関心がある民間事業者からのアイデア提案や、今後の施設整備や管理運営方法等に関する意見交換を行いました。

リニア駅前空間の検討状況についての報告と、高校生による発表を実施しました。

第 4 回ワークショップを踏まえてブラッシュアップした計画案や、デザインノートの素案を見ながら、これまでのワークショップでの議論の成果が反映されているかについて意見交換し、基本設計の内容をとりまとめました。（参加者 27 名：初参加 5 名）



1000 分の 1 の検討模型
（第 3 回ワークショップで提示）



ワークショップなどでの議論を反映した
300 分の 1 の検討模型
（第 4 回ワークショップで提示）

※基本設計の検討に際し、地域住民、長野県、道路管理者、JR 東海、交通事業者、福祉団体等と協議調整を図りながら検討を進めてきました。

付録 基本設計の検討体制

◆リニア駅周辺整備デザイン会議

基本設計を進めるにあたり、駅周辺の総合的なデザイン、各施設のデザイン、駅周辺の景観形成について、基本計画の方針及び諸条件、土地利用や広域的な視点を踏まえた具体的な検討を進めるため、学識者や地域代表、関係機関・団体の参画による『リニア駅周辺整備デザイン会議』を開催しました。

学識者

小澤 一郎	(公財)都市づくりパブリックデザインセンター顧問
北川原 温	東京芸術大学名誉教授
瀬田 史彦	東京大学大学院准教授
大西 達也	(一財)日本経済研究所常務理事
鈴木 弘司	名古屋工業大学准教授
上原 三知	信州大学准教授

地域代表・関係機関・団体

座光寺地域自治会
上郷地域まちづくり委員会
上郷北条まちづくり委員会
飯田商工会議所
みなみ信州農業協同組合
長野県経営者協会飯田支部
(公財)南信州・飯田産業センター
長野県中小企業団体中央会下伊那支部
飯田観光協会・信南交通(株) ※公共交通関係機関
長野県タクシー協会飯田下伊那支部 ※公共交通関係機関
長野県 (建設部リニア整備推進局、南信州地域振興局、飯田建設事務所)
上伊那広域連合事務局
南信州広域連合事務局
東海旅客鉄道(株) ※オブザーバー
飯田市 ※事務局

◆リニア駅周辺整備ワークショップ

飯田市を含めた伊那谷や信州の新しい玄関口となるリニア駅が、将来にわたって地域の「顔」となり、「そこに集う人が主役の駅」とすることを目指し、多様な世代・職業のみなさまと一緒にリニア駅のあり方を考えるワークショップを開催しました。

ワークショップには平成 30 年 2 月から 12 月の間に 5 回開催し、高校生から 80 代まで延べ 150 名のみなさまに参加いただき、**ました**。みなさまからいただいたアイデアやご意見を踏まえながら、この「飯田・リニア駅前空間デザインノート」をまとめました。

リニア駅周辺整備ワークショップに参加いただいたみなさま

(敬称略、五十音順)

赤羽 孝之	伊東 俊彦	稲垣 勝俊	岩橋 夏央	大島 咲人
岡庭 登子	尾澤 章	春日 昌夫	亀割 正夫	北宮 純世
木下 光	小平 茂樹	小平 朋奈	後藤 高一	佐藤 貴徳
佐藤 知可子	下島 崇	白子 経明	新海 健太郎	杉田 直木
高橋 充	寺澤 真生	殿倉 由起子	長沼 万里	丹羽 桂太
野村 史義	平岩 道雄	平田 玖瑠実	福田 真澄	藤木 康平
松岡 秀治	松島 正幸	松田 直己	美澤 勉	宮澤 大治郎
本島 未来	澤柳 佳奈	山崎 稔	山本 秀子	吉澤 剛
鷺尾 晋	他 16 名			

◆リニア駅周辺整備デザイン会議委員からのメッセージ

小澤 一郎 会長



「リニア駅周辺整備デザイン会議」において、2年間にわたり検討してきた成果がここにまとまったことを喜ばしく思います。リニア駅の受け入れに協力していただいた地域の皆様、そして、ワークショップ等に積極的に参画していただいた市民の方々や、デザイン会議の委員として参画していただいた各界の代表の皆様に感謝したいと思います。

「基本設計」として検討した内容は、「デザインノート」としてまとめました。そこでは5つの理念・テーマを柱としたまとめを行っております。地域の視点と広域の視点を入れ、効率性と安らぎやアメニティの両立を図り、地域の特性を十分に活かした空間づくりをすることにより、駅と周辺地域を高度なトランジット・ハブとして、また、地域コミュニティの拠点としても十分に機能することを目指しております。

これからは、ひとつひとつ具体化にむけた取組が必要になりますが、公民、民協働のもとに進んでいくことを期待しております。

北川原 温 副会長



基本理念に示されている「世界を惹きつけ、世界へ発信する」デザインの実現ができるかどうか、行政の「実施力」と市民の「想い」、そして関係者の「理解と応援」にかかっています。

市民の皆さんの想いが強ければ強いほど実現度が上がり、完成度が上がると信じています。

どんな困難も乗り越えて、輝く未来を次の世代に約束してほしいと思います。



リニア駅や地域の将来への想いをメッセージの実としたりんごの木
(第5回ワークショップで作成)



発行 長野県飯田市
〒 395-8501 長野県飯田市大久保町 2534
TEL : 0265-22-4511 (代)
URL : <http://www.city.iida.lg.jp/>
発行年月 2019 年 12 月